

○晴人傳四卷 長孝是はアリ 解言一読四ハナハナ 書面は次二

適後世のいふはあはれハ唯おろ
くはれと云ふはあはれはあはれ
そもろくはれはあはれと云ふは
非の素よりあはれはあはれ
むわの素よりあはれはあはれ
うりはあはれはあはれはあはれ
えあはれはあはれはあはれ

いあぬそいーちやいはいあまひめを
か遠く娘をせふや傳へいもの上まのれてあ
山ゆーの輯藤城まお母やるかぜか
けまーいゆまと遠く娘も門の内めも物
して産れまがそり産くかのきもやうか
ちの輯藤城まふの輯藤もろくれ産れ城
とちねんてあまのいめにあまん

もおゆつうれーいーとあまはま藤城
昔を戸まと教へーいよりそ遠く福まそ昔
けま産るまを初め娘ま叔するまをす
すめて懐向れあまを集めあまを教へ
むき付るまあまをつまてあまをうめ
くけー記名藤城ま初あま傳へまのね
と産れあまよーあまをうめ

礼よりきくはるは輯原と成るゝを
考へてうゝ此頃貞祐のゝ世をとも
そふやゝのあやうをいへて新と
本よりちやうめゝるふおほりそふを桂
そふ集と改めたるそふを集のあやうに
とちやうめゝるゝを

生志斎長収識

桂雲集序

望月氏名蕙友號長好後自改為長孝其先信濃人
世逐什一長孝資性恬澹無他嗜好從幼能詠和歌
至老不衰終極其精年十三詠名所蟲名所者舊跡
勝地也蟲者秋蛩也義取聞秋蛩感舊事為人所賞
或得和歌題未解其義例問而後詠之及出乃即歷
卷獨超自然固爾然方其勉勵刻苦則百之千之嘗
坐樓上讀和歌掌故偶鴨河暴漲浸灌殆將侵牀傍

人款示而纔知之年四十三棄金穀將其妻避喧塵
于京北岩倉村後隱于嵐山之東廣澤池傍自築一
室號小狹野屋猶言小白屋也然長孝伎高一時其
隱愈深其跡愈顯衣冠好事相往來櫛比不絕若飛
鳥井權大納言後一位雅章水無瀨參議從二位蕙
豐二公皆能遺其貴以和歌締交一日飛鳥井公訪
其室時正中秋天慳無月特貪幽興分題詠和歌長
孝得嵐山公當時名家三歎稱善世以榮之以歌中

有桂雲二字今集名以之最後以其地卑濕門人相謀移居于京師長孝以元和三年丁巳生延寶八年庚申春三月十五日卒於是年六十四矣長孝和歌師松永貞德貞德愛其研覈不懈以古今和歌集祕訣及諸宗匠所建和歌式悉授之貞德所得本出于幽齋細川公厥後長孝傳長雅長雅傳長伯長伯傳長因長因傳長收此集也享保十一年丙午京師人兼山氏梓之命以廣澤輯藻是歲安永九年庚子距

長孝卒一百年先是鏤板既亡不知所在其他著述亦皆不傳長收有志復鐫因取其家所藏及所他聞見悉補舊集脫漏部類分題其小引短序語涉重疊併與削之且改今名謂和歌能達性情以便佛曰長孝好在和歌此舉蓋追其冥福也集成送標條若干許語乞序遂書以代小傳是為序

安永九年庚子三月

那波師曾撰

生志齋藏板



桂雲序三終

天明元年辛丑九月發行

浪華書林

堺筋長堀橋半町北

增田源兵衛